

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームなごみ ユニット2	評価実施年月日	平成21年10月1日～10月20日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年10月20日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	『その人らしい生活・安全であたりまえの生活・尊厳のある生活をめざし、安全で自立(自律)した生涯への支援を行う』という独自の理念を作っている。また、その基本理念を具体化し現場スタッフが日々利用者との関わりを導きやすいように、平成20年04月ケア理念を職員会議にて議論。その中に密着型としての「地域で暮らす」ことについての理念を掲げた。		
○理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者はグループホームに関わる法令の意義を十分理解し、運営方針、目標を具体化し会議などで職員へ周知を図っている。		
○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	機関紙や運営推進会議、地域住民からの相談の際に、なごみの理念を含め地域の中で普通に生活することの大切さを伝えている。	○	運営推進会議においてグループホームの存在をかなり理解していただけるようになっている。今後地元町内独自に取り組んでいる子ども会活動や小学校のクラブ活動等との交流について検討していきたい。
2. 地域との支えあい			
○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	共用玄関に職員手製の親しみやすいリースを配置している。季節ごとにお花などを玄関先に置き雰囲気作りに配慮している。	○	引き続きホーム行事の参加呼びかけや、広報誌の回覧等により気軽に立ち寄っていただけるような雰囲気づくり、活動を進めていく。
○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	知人などの面会等も積極的に行なって頂くよう各ご家族へも働きかけており、実際入居前に交流のあった方が面会に来られている。道路に面しているため、道行く人と日常的に挨拶を交わすことが出来る。また散歩に出かけた際には気軽に挨拶を交わしている。近隣の方たちが「ここはどんなところですか」と立ち寄ったり、話をしていくなどの交流を持てるようになってきた。	○	地域の高齢者及び高齢者世帯、高齢者を抱える世帯の方たちに対して、事業所として何をどのように関わっていられるかを運営推進会議、広報誌の回覧を通して話し合っていきたい。
○事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	個別に老人会に加入している方はいないが、ホームとして町内会に加入し費、諸々の募金活動に参加している。また町内会の行事(お祭り)に参加したり町内の喫茶店を利用したり地元の人達との交流に努めている。同一法人の他施設が隣接しており随時協力体制を敷いている。緊急時等には警察や消防等に応援を要請する等といった事も随時行なっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	サービスの質の評価が何故必要なのか、グループホームがになうべき役割とはいったい何かについてスタッフへ繰り返し伝えている。それらについて実際のサービスに活かす事が出来るよう点検、助言などを行なっている。	○	今後も外部評価による改善項目については実行可能な計画と共に全スタッフで取り組んでいく。各スタッフが個別に自己評価した項目やスタッフ全体で課題となっていることについてはどうしたら改善できるかを管理者および指導者とともにカンファレンス等で検討したり個別面談時に検討していく必要がある。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議ではなごみの事業内容、行事についての予定、実績を説明している。また、ただの報告とならないように必ず質問・ご意見・ご要望等を受ける時間を設けている。		会議等にて検討していけるよう整備していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	その都度不明な事項などがあれば担当者へ電話したり出向いたりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	その都度、権利擁護事業や成年後見制度について理解を深めていけるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部研修を通し、高齢者虐待への意識することができるようになっている。また、定期的に会議を実施し、研修内容などを共有することができるようになっている。		内部研修を定期的な実施するとともに、外部研修への参加を積極的に実施していく。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時の契約書に明示されており、懇切丁寧に説明している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的な会話の中から利用者の意見や苦情を汲み取る努力をしている。重要事項説明書にて公的な相談の窓口を具体的に明記し利用頂くよう説明している。		ご本人やご家族が話しやすい関係を構築していく。また、その都度迅速に対応していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	配布し常にホームの状況を伝えている。また個別の状況については、電話、また、面会にいらした際に変化のあったこと、利用者の要望や考えていること等をお便りの他、季刊誌を発行しホームでの生活についてご連絡差し上げている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者はグループホームに関わる法令の意義を十分理解し、運営方針、目標を具体化し会議などで職員へ周知を図っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	すべてのスタッフが発言しやすい雰囲気を作り、大事な意見については管理者まで確実に伝わる仕組みを作っている。		常時、運営推進会議の内容などを伝えながら意見を反映していきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	運営推進会議のメンバーとしてご家族に参加いただいているほか、サービス計画にかかる担当者会議、モニタリングにご参加いただいている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	各ユニットの職員は固定しており馴染みの関係の構築に務めている。異動や退職の場合にも利用者への影響を考慮して個別に挨拶をしたり紹介をしたりしている。		異動・離職などの場合には、入居者様に応じ個別に挨拶をするなど配慮していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	苫小牧GH連絡会の研修、市内で行われる各研修参加はもとより、認知症ケア学会等、医療福祉チャンネルで提供されている全国規模の研修会をビデオ収録して学習を進めている。また、制度的研修等、それぞれのレベルに合わせた研修を必要に応じて可能な限り受講している。また、インターネットや文献など活用し各スタッフに配布すると共に、スーパーバイザー（管理者）よりその都度助言、指導を受けている。		資格取得を希望するスタッフについては講習時間等などについて勤務を調整するなどの事も行なう事が可能である。各スタッフ参加の勉強会などの機会はほとんどできておらず、今後の課題である。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	苫小牧GH連絡会がありそこで行われる研修および交流会に参加している。		各スタッフにあわせたカリキュラムを組み実現したい。他のグループホームへの研修を充実させたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	仕事上の悩みをその都度聞きいれストレスとしてたまらないよう配慮している。		変則勤務という事もあり、親睦を深める為の時間はなかなか取れない。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	定期的に各職員を面接を行い、半年間で達成できるよう各々の自己目標を掲げてもらっている。また順番にその職員の力量に合わせた研修に参加している。また、資格取得(ケアマネージャー、介護福祉士等)の資格取得希望者のための対策講座、また、学習教材の提供を施設長が積極的に行っている。		向上心をもてるような言葉がけを増やしていきたい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	最初の面接時から入居者様の不安や悩みを把握することに努めている。	○	更にスタッフ間で様々なケースにおける意見交換を行ない、ご本人にとってのより良いケアが提供できるよう努めていきたい。また各スタッフの技術的な向上も図るよう仕向けていきたい。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	不明な点については遠慮なく担当スタッフに確認・質問して頂くよう常日頃からお願いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前訪問調査による聞き取り、また、待機期間内に定期的に電話による様子伺い等を作って努力をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居までに時間のあるひと、またはご家族がご本人に入居の話を勧め、ある程度納得していただくため見学しに来るケース等、さまざまであるが、入居前には出来る限り自宅に訪問しご本人と面談を行っている。		体験入所などを検討していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の先輩として尊敬しながら積極的に教えを請う場面を設けている。		スタッフ指導に努めていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人を中心に、ご家族と情報を共有し、共に支えていく関係に配慮している。ケースによってはご家族の存在そのものがご本人の生活を支える基盤になっていたり、ご本人の家族に対する想いを強く尊重していきたい場合もあり、その都度できる限りご本人を支えていく関係性のご協力をいただいている。		ご家族への関係作りを今後も続けていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	今までのご本人様ご家族の関係をお伺いした上で、情報の共有を行いながら良い関係を築き、保っていけるよう配慮している。		定期的な訪問又は連絡を依頼し、今後も継続しよりよい関係を保っていけるよう支援を行っていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつも昔から利用している美容室にご家族が連れて行くかたやお墓参りなどを継続している利用者がある。知人や友人は向こうから会いに来てくださる場合がほとんどで知人友人の家にこちらから出かけていくことは少ないが希望があれば可能な限り対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	意図的に他の方々と交流ができるよう場面設定を随時行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者が入院した場合はお見舞いに行くなどしている。ホームで看取りを行った利用者のご家族はその後ホームを気軽に訪れ交流できるなど継続的な関わりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントを通し極力お一人お一人の考えや希望を傾聴し、入居者様が望む生活が送っていただけるよう支援・援助させていただいている。ご意向が確認できない場合は、ご家族に相談しながら情報の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	各入居者の生活歴についてはスタッフ間で共有しており、談話等の中で見合った課題や話題を提供するようにしている。		今後ともご本人様、ご家族様へ積極的にアセスメントを実施し、サービスの向上を目指していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者それぞれの生活歴を十分把握した上で得意分野に関しては十分力を発揮して頂けるよう支援している。		細かな内容まで総合的に把握し、スタッフ間にて共有できるようにしていく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	不定期に随時生じる案件についてカンファレンスを行ない、内容については管理者を含め各職員に伝達している。		より良い介護計画立案のため、各スタッフの意見を聞きサービスの向上を目指していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	実施機関に基づき随時行なっている他、状態に変化が見られた時にもその都度見直しを行なっている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	アセスメントに基づき個別のサービス計画書を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者様、ご家族様と要望に沿うことができるようにしている。急な外出、法事や外食などにも柔軟に対応、ケアをさせていただいている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	同一法人の他施設が隣接しており随時協力体制を敷いている。緊急時等には警察や消防等に応援を要請する等といった事も随時行なっている。		地域交流を含め、ボランティアの受け入れを強化していく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	医療機関や主治医との相談を行い、必要に応じサービスを利用できる調整を実施している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターと連絡を取り合い、運営推進会議にも参加していただいている。センターの研修に出来るだけ参加し、スタッフの知識の習得を実践している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関において認知症の理解は示して頂いている。受診時間の優先などの配慮も随時行なっている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関と連携が取れており通院時に指示、助言をいただける体制になっている。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションと提携しており、定期的に受診に来てもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	より短期間で退院できるよう医療機関などに情報提供等協力を行なっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	当ホームにての重度化した場合や終末期に対する方針を明確にし、ご本人、ご家族にお伝えし、入居者様(ご家族)が望む終末期を迎えられるよう支援している。		状況に応じ、入居者様(ご家族)と相談しながら、医療機関と相談の上対応していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	看取りに係る指針を作成し、入居者様・ご家族様の希望に添うことができるよう整備している。		状況に応じ、入居者様(ご家族)と相談しながら、医療機関と相談の上対応していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入退所いずれの場合においても想定される問題点について十分ご家族や担当ワーカー等と話し合う機会を持つようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者個々に対し、ご本人が思っている「現実」に対し職員側は極力否定しないよう理解しようとする姿勢は常に持っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	全ての入居者様に自己選択・自己決定を原則とし、できる限り自己決定をしていただいている。意思や希望を引き出すことが出来るよう声がけの方法を工夫している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	危険を伴う行為や見守りがやむなく困難な場合を除き、自由にそれぞれの方々のペースで過ごして頂いている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	個人事の希望に合わせ寒暖などの点も考慮に入れながら服装、髪型、お化粧等の支援を行なっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	日中の昼寝については長引かないよう配慮し、運動や何らかの活動に参加して頂きながら良眠出来るよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	健康状態を配慮し行なっている。火災の危険性がある為喫煙所はホールでという事にしてさせて頂いている。自室に持ち込まれた場合はさりげなく配慮している。		嗜好品について、健康面へ配慮しながら可能な限り対応していく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	生活全般への配慮でおむつを外す事が出来た方がいる。排泄状の失敗などについてさりげなく処理するようにしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	身体的な負担も苦慮し全身浴、足浴、シャワー浴、清拭等その時々々の状態、希望等に極力あわせる形で行なっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者様のペースにあわせ安眠や休息を支援している。		日中は過度にならないよう運動や散歩等を提供することによって、夜間に安眠していただけるようにしていく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	各入居者の生活歴についてはスタッフ間で共有しており、談話等の中で見合った課題や話題を提供するようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族とも相談をし、現金をを持ってらっしゃる方もおり、外出時にはご自分で買い物を楽しまれている方もいる。		金銭トラブルにつながることはないよう配慮していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	隣接している当該法人施設へホーム入居者を見かけた場合通報してもらうようお願いしている。 ボランティアの利用などで支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日帰りの温泉入浴やドライブなどを実施している。		できる限りご本人の希望通り外出できるよう取り組んでいく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人からの要望がある場合には他の方に聞こえないようにする等プライバシーに十分配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会率を高める為のお願いは各ご家族へ行っており大半のご家族では実践して頂いている。雰囲気等についてはスタッフが間を取り持つような配慮はその都度行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	やむを得ない場合を除き身体拘束を行なわない事をスタッフ間で認識している。		今後も各スタッフの意識を高められるように、指導・自己学習を推進していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	見守りや声掛け等の工夫をする事で施錠の必要性がない事を指導しており、実践されている。		今後も各スタッフの意識を高められるようにしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常にスタッフ間でお互いの状況を把握するようにしており、死角に入らざるを得ない場合は他のスタッフがフォローするといった連携を取る事が出来るよう指導している。	○	スタッフ間のコミュニケーション不足を解消していく事を徹底していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	最大限ご本人の意向に沿いながら極力ご自分の力で達成できるよう支援している。	○	全スタッフがインシデントについて意識して対応できるように指導していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時のマニュアルを作成し、常に確認しながら業務に従事している。煙草を嗜好される入居者様もいるため、所在確認を含め安全への支援を実施している。		スタッフの退職や異動の際に指導していくとともに、定期的な確認を実施していく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急時や災害時等におけるマニュアルがあり、有事の際に適切に対応できるよう心がけについて指導している。		全てにおいてひとつのマニュアルで事足りるという事では決してなく、事例が生じる都度検討を重ねている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	救急時や災害時等におけるマニュアルがあり、有事の際に適切に対応できるよう心がけについて指導している。		職員による避難誘導も限界があるため、近隣施設や町内会を含め連携を図っていく。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ひとりひとりのペースを尊重しやむを得ない場合を除いて束縛する事のないよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックの他、日常の中で顔色や表情、またご本人の行動やしぐさなどから体調の変化に気づくことができるようにしている。また各スタッフ間にて記録と共に、口頭にての引継ぎを徹底している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方の内容については常に誰でも閲覧できるようにしてある。変化については随時記録化し受診時に上申できるようにしてある。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分量のチェック、運動の誘導など無理のない範囲で行なって頂くよう働き掛けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自己管理が困難な方について介助により口腔ケアを行っている。		ご自身で口腔ケアをされている方にも注意し実践していく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量や、水分摂取量等記録により把握するようにしている。		既往病による食事制限など医療機関に上申しながら支援していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	マニュアルを作成しており、実行している。異常が見られた場合には速やかに医療機関へ受診するよう心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	新鮮な食材の使用を心がけており、毎日の清掃・消毒を実践し、清潔な状態を保てるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	共用玄関に職員手製の親しみやすいリースを配置している。季節ごとにお花などを玄関先に置き雰囲気作りに配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースには、手作りの作品などを展示し、生活感のある雰囲気作りをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間の限定した個所にこだわる事なく様々な場所で話の輪を作る事が出来るよう支援している。		思い出の写真を掲示したりしながら、思い起こしが期待できるような環境を考えていく。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なじみのある物を持参して頂くようご家族へ依頼している。日常生活に支障がなく、火気、刃物類等の危険物以外は制約はしていない		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	失禁や汚物処理等については必ず換気し悪臭を除去するよう努めている他、口臭、体臭、寒暖の調節等にも配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下には手摺、床剤には転倒時衝撃を吸収できるようコルクタイルを使用。備品として四点式杖、歩行器、車椅子等を用意し、身体機能に応じて使用して頂いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	特に間違えやすい居室やトイレなど違和感を余り感じる事なくかつわかりやすく目印を表示している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋外にて畑や花壇を作ったり、ベランダに花を飾るなどしながら、花に水を差せる環境を提供している。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	✓①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	✓①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	✓①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	✓①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ✓②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	✓①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	✓①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族 ✓②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ✓③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ✓③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	✓①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	✓①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ✓②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）